

2022 4

最新アートにギャラリーで出会う

春の注目展×130

春展ナビ+イベントガイド

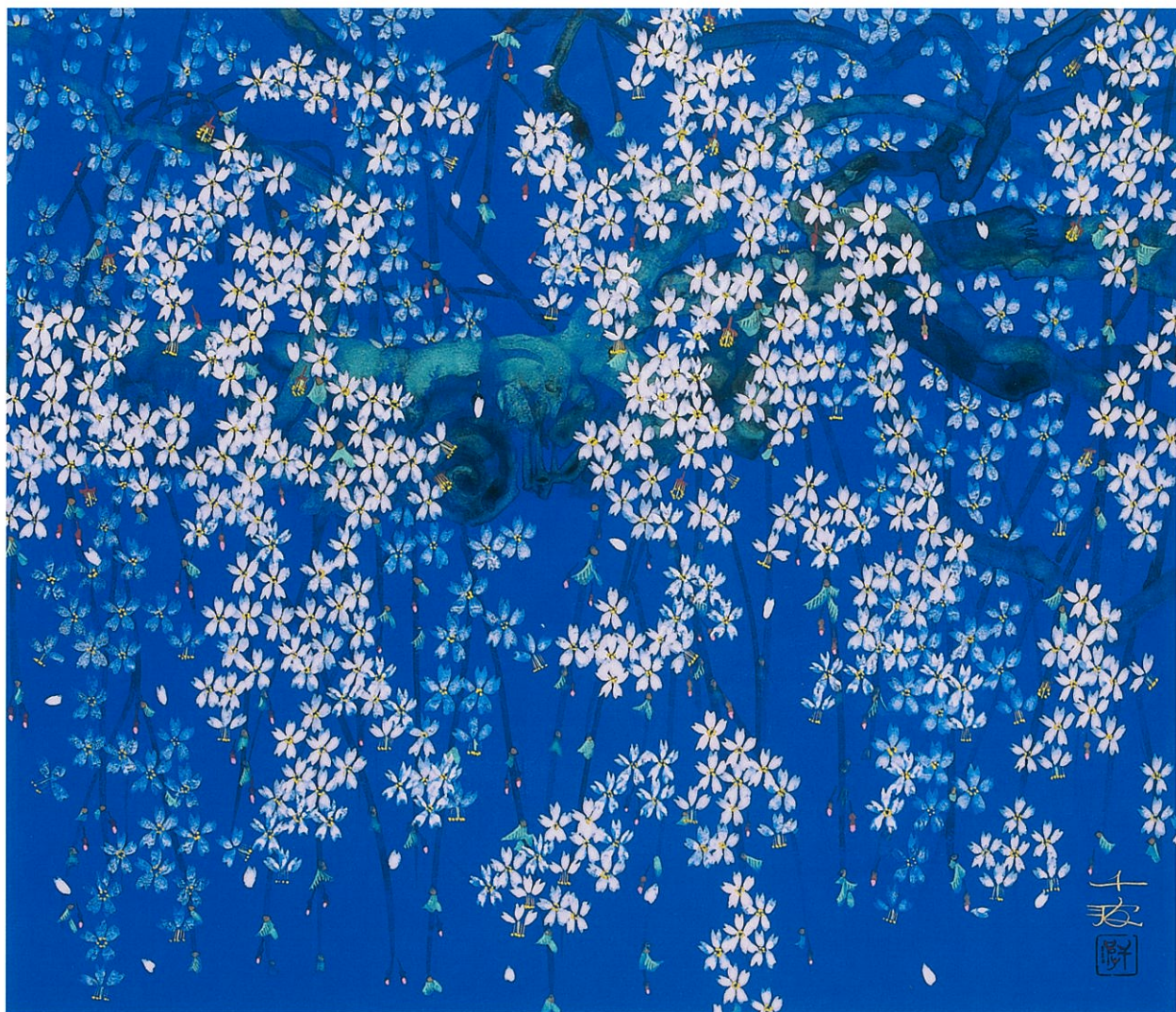
春展
NAVI

2022

月刊 美術

No.559

Since 1975



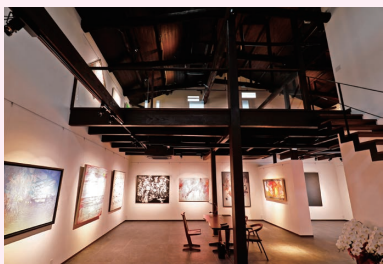
パリと京都を結ぶ新拠点から
日本の若手作家を世界へ発信

ギャラリーためなが京都店

京都市東山区川端通七条上る
上堀詰町265-7
☎075(532)3001
11:00~19:00
<http://www.tamenaga.com>



画廊名を記した行灯



梁を生かした展示空間
©Kazunori Okoshi



独特の空間が作品の新しい魅力を引き出す



明治期に建てられた町家を改装したギャラリーためなが 京都店

1969年東京・銀座で創業したギャラリーためながは、その2年後パリ・マティニオン大通りに開廊。その50周年を記念して、昨年春には京都に新画廊をオープンした。京都国立博物館、三十三間堂にほど近い七条の鴨川ほとりの築百年を超える町屋を改装。広々としたスペースと高い天井に展示されることで美術品の新しい魅力が引き出されるとともに、古い文化を大切にしつつ新しい価値を創造するアートスポットとしても注目を集める。

「百年千年後にも残るべく才能溢れる日本の現代作家達を紹介する」という思いで、著名作家のほか活躍が期待される若手日本人作家を積極的に紹介。この春の「京都店 開廊1周年記念展 巴里を魅了する和の作家たち」では、江川直也・大沢拓也・小津航・梶岡俊幸・北川麻衣子・木村佳代子・菅原健彦・智内兄助・中村ケンゴ・深尾力三・村本真吾・山本大也・吉川民仁の13作家の約40点を一堂に出品する。

西洋絵画の名品を日本のコレクターに届け、アイズピリ、コタボ、ギアマン、ワイズバッシュ、カシニョールを世に送り出してきたこれまでの半世紀からさらに一歩踏み出し、日本文化を育んだ京都から日本の気鋭のアートをパリそして世界へと発信する。その挑戦から目が離せない。

この春の展示

京都店 開廊1周年記念展
巴里を魅了する和の作家たち
4月17日(日)~5月22日(日) 会期中無休

ジャン・ピエール・カシニョール展

5月28日(土)~6月19日(日) 会期中無休

ギャラリーためなが

東京都中央区銀座7-5-4
☎03(3573)5368
11:00~19:00/
日・祝~17:00
<http://www.tamenaga.com>



ジャン・ピエール・カシニョール
1935年パリ生まれ。59年サロン・ドートンヌ会員。64年爲永清司と出会う。以後、フランス、日本ほか世界中で展覧会を開催。

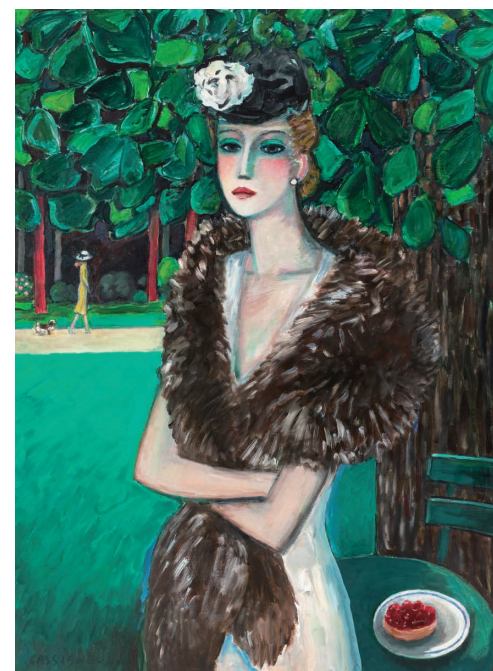
世界で
愛され続ける
華麗さと優美さ



《牡丹》100×81cm 油彩



《雲》162×130cm 油彩



《苺のタルト》130×97cm 油彩

無名だったカシニョールの才能を
ギャラリーためなが創設者である爲
永清司が見出したのは1964年。
2年後の66年、世界各国から有望な

達したカシニョール芸術の新作40点
を披露する。

華麗な色彩とエレガントな雰囲気
醸し出す女性を描いた優美な作品は、
世界中に愛され続ける。円熟の域に
達したカシニョール芸術の新作40点
を披露する。

鋭の作家を東京に集め開いた「国際
形象展」にカシニョールの作品を出
品させ、本格的にその活動の支援を
始めた。

その後も、爲永が大規模な展覧会
を監修開催したことで、画家の名は
一躍日本に知れ渡り、さらに日本
のみならず世界各国で最も愛される
画家の一人として名声を博すに至っ
た。